

実施要領 様式11(第13条関係)  
 【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成20年5月28日

【評価実施概要】

事業所番号	272701277
法人名	倉石ハーネス株式会社
事業所名	グループホームながわ荘
所在地	三戸郡南部町大字上名久井字伊勢堂下21-7 (電話) 0178-60-7860
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年10月17日

【情報提供票より】(平成19年9月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年11月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.5人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	理美容代1,500円ほか 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4)利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	64 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	町立名川病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は、月1回の系列施設間で行われる本部会議において、自己評価や外部評価、ホームの現状を報告し、情報交換を行っており、より良いサービス提供に向けて改善策を検討したり、マンネリ化防止につなげている。また、職員は利用者一人ひとりのペースやリズムを大切にするとともに個々を尊重し、利用者が生きがいを持ちながら過ごせるよう支援している。  
 職員は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度、感染症等に関する外部研修に積極的に参加している。受講後は報告書を作成して会議で他の職員に伝える等、ホーム全体のレベルアップにつなげている。  
 地域では様々なイベントが行われているため、地域のお祭りには季節ごとに出かけている。また、行きつけの理美容院や買い物に出かける等、利用者の希望に応じたケアが提供されている。

【特に改善が求められる点】

外部研修には積極的に職員を派遣しているが、これまでの研修傾向や職員の希望等を踏まえた上で、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。  
 管理者や職員は地域密着型サービスの役割を十分理解しているが、それが理念に反映されていないので、全職員で再検討を行うなど、現在の理念に地域密着の意義等を盛り込んではどうか。  
 全家族に対し、日々の暮らしぶり等を定期的に報告する機会が確保されていないので、各家族宛の手紙を毎月送付する等の取り組みを検討してはどうか。  
 災害時に備えて避難訓練等が行われているが、今後は消防署等の地域からの協力が得られるような体制作りに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>系列施設間での本部会議や、ホーム内でのスタッフ会議で外部評価の結果を検討しており、手洗い場等のハード面も含めて、改善すべき点については積極的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解しており、自己評価にはホーム一丸となって取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、ホームの運営状況や評価結果等を報告し、メンバーから意見を出してもらっている。委員から出された意見は日々のケアに反映させ、利用者へのケアサービス向上につなげている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>利用者の生活状況は面会時に家族に報告している。また、状態変化等があった時は電話連絡を行っている。金銭管理状況は明細書とレシートを毎月家族に送付している。苦情受付窓口を文書に明示したり、玄関に意見箱を設置するほか、家族面会時には職員が声がけする等、家族がホームに何でも話せる関係を築くよう取り組んでいる。家族から意見等が出された時には取り決めに従って対応することとしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>年4回の広報誌を地域に配布したり、町内会に加入して利用者と一緒に清掃活動に参加する等、ホームを理解してもらえるような取り組みを行っており、近所の方が気軽に立ち寄ってくれている。また、保育園の誕生会に参加したり、ボランティア団体の訪問や個人ボランティアを受け入れる等、地域に開かれたホーム作りを行っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>開設時に「常に笑顔で！心と心のキャッチボールを行います」という運営理念を掲げている。理念は全職員で作成したほか、ホーム内に掲示したり、採用時研修や月1回の職員会議を通じて共有化を図っており、利用者がその人らしいペースで楽しく過ごせるよう、職員は一人ひとりを尊重したケアを提供するよう努めている。</p> <p>契約時には理念や方針を利用者及び家族に十分説明し、同意を得ている。また、契約改訂時や退居時にも十分に説明して納得してもらっている。退居時は、希望があれば退居先等の情報提供を行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者が安心してサービスを開始できるよう、また、利用者や家族の意向にそったサービスを提供できるよう、個々の生活歴等の把握に努めている。</p> <p>利用者と職員が一緒におやつを作ったり、利用者の希望に応じてきこ採りに出かける等、一人ひとりの喜び等を共感するよう努めている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画作成時は、利用者及び家族の意見や希望を把握するとともに、職員会議で検討しており、具体的な計画内容となっている。計画は3ヶ月に1回の見直しを行うほか、状態等の変化時には随時の見直しを行っている。</p> <p>准看護師の資格をもった職員を配置し、医療面でのケアの充実を図っている。また、協力医療機関やかかりつけ医との連携を密に図り、利用者や家族の意向に配慮しながら、定期受診等への支援を行っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者一人ひとりのペースやリズムを大切にするとともに、利用者とのコミュニケーションを通じて個々の希望を把握するよう努めている。通いなれた美容院やこだわりの店に出かける等、利用者の要望に柔軟に対応している。</p> <p>外部の食材センターの栄養士が栄養バランス等に配慮した献立を作成するほか、1日の食事や水分の摂取量を把握し、記録している。また、食事の準備等を利用者に手伝ってもらったり、職員も一緒に食事を摂る等、食事を楽しめるような配慮が行われている。</p>

# 評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「常に笑顔で！心と心のキャッチボールを行います」という開設当初からの運営理念を掲げている。管理者及び職員は地域密着型サービスの役割等を理解しているが、それが理念に反映されていない。	○	全職員で理念の再検討を行うなど、現在の理念に地域密着型サービスの役割等を盛り込むことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は開設時に全職員で作成している。採用時研修や月1回の職員会議で共有を図るほか、ホーム内に掲示しており、利用者がその人らしいペースで楽しく過ごせるよう、一人ひとりを尊重したケアを提供することを心がけている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入しており、年4回作成している広報誌を配布してホームの現状や役割を地域に理解してもらっている。また、清掃活動に参加して地域に貢献する等の取り組みも行われており、近所の方が花や食べ物を届けてくれるなどの関係が作られている。保育園の誕生会に参加するほか、利用者のプライバシーに配慮した上で、子ども会や婦人会、ボランティア団体の訪問、個人ボランティア等を受け入れ、ホームの機能を地域に還元している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解しており、自己評価はホーム全体で取り組んでいる。また、定期的開催している本部会議やスタッフ会議で外部評価の結果を報告しており、改善すべきことについては積極的に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、ホームの運営状況や評価結果等を報告し、メンバーから意見を出してもらっている。また、地域の行事に関する情報交換も行っている。メンバーから出された意見は日々のケアに反映させ、サービスの質の向上につなげている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年4回発行している広報誌を配布してホームの運営状況等を伝えるほか、評価結果も報告している。また、地域との関わり方に関する助言をもらう等の連携が図られている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関する外部研修に参加するほか、職員会議で情報の共有を図り、制度に関する理解を深めている。また、制度の利用を希望する方がいる場合には、情報提供等を行う体制となっている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加する等、虐待に関する理解を深めている。管理者は、職員の虐待を未然に防ぐよう、職員とのコミュニケーションや精神的ケアを大切にするとともに、日々のケアへの目配りを行っている。また、虐待を発見した場合の取り決め等があり、職員への周知が図られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には理念や方針を十分に説明するとともに、利用者や家族が納得するまで話し合い、同意を得てから契約を結んでいる。契約改訂時や退居時にも十分に説明を行って同意を得ており、希望があれば退居先等の情報提供を行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日々の金銭管理状況について、明細書にレシートを添付して毎月家族に報告している。面会に来る家族にはその都度暮らしぶり等を報告しているが、面会が頻繁ではない家族には状態変化時の連絡はするが、それ以外の暮らしぶり等の報告は定期的に行われていない。	○	個々の家族に宛てた手紙を月1回送付する等、ホームでの暮らしの様子を定期的に家族に報告する機会を設けてはどうか。
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族に声がけするなど、意見等を話しやすい雰囲気作りを心がけている。また、ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書に明示するほか、玄関に意見箱を設置しており、家族から意見等が出された時には取り決めに従って対応することとなっている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	主に管理者の異動が行われているが、異動の時には利用者に十分説明するとともに、詳細な引継ぎを行う等、利用者への影響に配慮した対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じた外部研修に積極的に職員を派遣しており、全職員が日々のケアに生かせるよう、受講後は報告書を作成し、職員会議で報告している。外部研修に職員を派遣する時は勤務体制に配慮する等の取り組みは行われているが、年間研修計画を作成するまでには至っていない。	○	これまでの外部研修の開催状況や、職員の希望等を把握し、より個々に応じた研修を受講できるよう、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の同業者との交流を図るほか、グループホーム協会に加入して研修会に参加したり、他事業所との情報交換を図っており、得られた気づき等を日々のケアに反映させるよう努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを開始できるよう、また、利用者や家族の意向に添ったサービスを提供できるよう、一人ひとりの生活歴や心身の状況等を把握するよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が食事や作業を共にすることで、会話の中から個々の思いや気持ちに共感するよう努めている。また、利用者の得意分野では力を発揮してもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族との関わりや聞き取りから、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時は、利用者や家族の意向を取り入れるとともに、職員会議で検討しており、利用者本位の具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、基本的には3ヶ月ごとに見直しを行っている。また、日頃から利用者の状態や家族の意向等の把握に努めており、変化があった場合には随時の見直しを行っている。見直しを行う時には再アセスメントを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行きつけの美容院や買い物に出かける等、利用者の要望に応じた柔軟なケアが提供されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を確保するほか、利用者や家族が希望するかかりつけ医との連携が図られている。また、受診結果は家族に報告している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアについて、ホームでできることとできないことを示している。利用者の状態に応じて、その都度家族の意向を確認したり、医療機関から情報を収集する等、適切な対応を行えるよう話し合いを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定することなく、一人ひとりの羞恥心等に配慮したケアを提供するよう努めている。職員は個人情報について理解しており、個人情報に関わる書類はスタッフルームに保管したり、広報誌に写真を掲載する場合は家族の同意を得る等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、また、訴えを後回しにすることなく、一人ひとりのペースやリズムを大切にケアを提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の好みを取り入れられている。食事の準備や後片付けは、利用者の意向に応じて一緒に行っている。また、職員も一緒に会話を楽しみながら食事を摂る等、食事の時間を楽しめるような配慮が行われている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回となっているが、時間や入浴日等、可能な限り利用者の希望に合わせて柔軟に対応している。また、入浴時には一人ひとりの羞恥心に配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なこと等を把握しており、利用者が生きがいを見出せるよう、個々に応じて食事の準備等の役割を持ってもらっている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域のお祭りやきのこ採り等の季節ごとの行事に出かけるほか、行きつけの美容院や買い物等、利用者の希望を聞きながら外出する機会を設けている。また、外出時には身体状況やその日の体調等に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は身体拘束について理解しており、拘束は行われていない。やむを得ず拘束を行わなければならない場合には家族に説明して同意を得る等の体制となっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、見守りや感知センサーの設置により利用者の外出傾向を把握しており、察知した時には職員が付き添う等の支援を行っている。また、無断外出時に近隣の協力が得られるよう働きかけを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施するほか、連絡網を作成し、災害時に備えている。夜間を想定した避難訓練は行われているが、災害時に地域の協力が得られるような働きかけは行われていない。	○	地域の消防署や警察署、町内会等に災害時の協力を呼びかけるとともに、避難訓練時にも協力が得られる仕組み作りに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の食材センターの栄養士が献立を作成しており、栄養バランスやカロリー等に配慮されている。また、食事や水分の摂取量を把握し、記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染症に関するマニュアルが整備されており、新しい情報を収集した時等、必要に応じて随時の見直しを行っている。また、外部研修等を通じて感染症に関する知識を深めている。うがいと手洗いのポスターをホーム内に掲示する等、家族等の訪問者にも情報を提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に職員手作りの木製看板を掲げたり、花を飾る等、温かみを感じる雰囲気作りが行われている。ホールにはソファや季節感のある装飾品が置かれており、家庭的である。また、天窓が設置されているため自然光が十分に入るほか、職員が立てる物音等も適切である。		
34	78	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた物等を持ち込んでもらうよう働きかけを行っており、写真等の馴染みの物が持ちこまれ、居心地よく過ごせる空間となっている。		

※  は、重点項目。